造形表現Ⅰ	1年　後期 卒必　　幼必　　保必	演習2単位	担当教員名	石 森 小 緒 里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：保育現場の実際指導にそのまま役立つ教材作り

② 目標　・造形的な体験活動を通して、表現することの楽しさを味わう。

・課題作品の制作は、その際の適切な材料や用具について、自ら工夫し積極的に研究を行う。

・幼児と共に安全で楽しく取り組める教材研究を行う。

授業の概要

幼児は「遊び」を通して自身を確かめ、想像力を養いながら少しずつ「人」や「物」と触れ合い生きる力を身に着けていく。そうしたことから、保育者が担う環境（遊びの場）作りは大変重要である。授業では、できるだけ多くの材料体験をめざした課題制作に取り組み、実際の保育現場においても、子どもたちと共に安全で楽しく取り組める教材作りに応用させる。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	幼児と造形表現	造形表現の意義
2		領域「表現」の中の造形表現
3	平面造形の技法と応用	様々な表現技法の体験と応用（教材化）
4		（フロッタージュ、スクラッチ、マーブリング、スパッタリング、デカルコ
5		コラージュ等の技法演習と適切な紙素材選び）
6		◆クレヨンの導入とあそび
7		◆色の三原色、色相環ワーク
8		
9		◆共同制作活動
10		
11	手作りおもちゃであそぶ	身近な素材（生活用品等）を活かしておもちゃをつくる
12		◆工作材料や道具について
13		◆切る、貼る、くっつける
14		◆発達と援助
15		
16	造形技法の総合的応用課題	スケッチブックシアター制作
17		◆様々な素材や技法を使って「しかけ」をつくる
18		◆保育実習で活用できる教材作り
19		
20		
21		
22		
23		◆作品発表（模擬保育）
24	装飾的な環境づくり	保育環境に活かせる装飾的な作品と行事への応用
25		◆季節感を楽しむ
26		◆思い出を飾る
27		◆空間を飾る（壁面デザイン）
28		
29		
30		

定期試験	なし
テキスト	「幼児の造形表現」　渡辺一洋著　みなみ書房
参考図書	適宜紹介する。
教員の評価方法	準備忘れ物状況を含めた授業態度（20%）課題に対しての創意工夫（自己評価）を加味した課題作品からの評価（80%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	常に、保育現場で活用することを意識して課題制作に取り組むこと。使用する材用や用具は大切に扱い、授業で用意されたもの以外にも各自工夫・研究を行う。